

■概要

NICTは、知能科学領域におけるAI技術に関するオープンイノベーション型の戦略的な研究開発推進組織として、平成29年4月に「知能科学融合研究開発推進センター（AIS）」を設立し、連携推進室と連携研究室の2つの室を設置している。

AISではNICTが培ってきた研究データ等について産学官が利活用可能な研究開発環境を構築し、オープンイノベーションによる社会実装プロジェクトの推進に寄与することを目標としている（図1）。

平成30年度の重点的研究開発課題は次のとおりである。

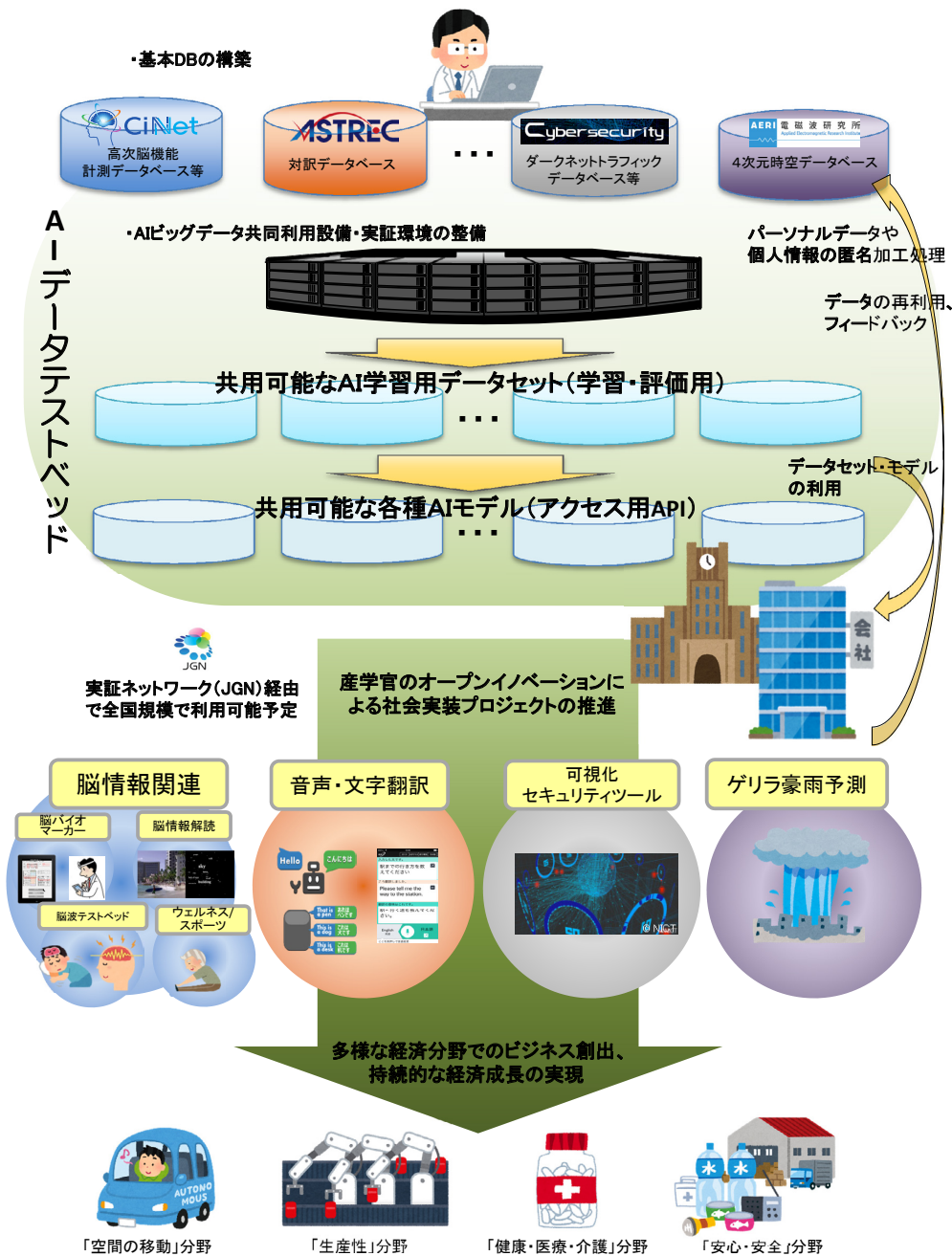


図1 「知能科学融合研究開発推進センター（AIS）」のイメージ図

- ・AIデータテストベッドの構築

NICTが研究開発を通じて蓄積した研究データ及びそれらを共有・公開可能な「AIデータテストベッド」を構築する。

- ・オープンイノベーション型研究プロジェクトの推進への寄与

NICT内部のAIに関連した研究の連携を強化すること等を通じてAIデータテストベッドの内容の充実化を図ること等により、産学官のオープンイノベーション型研究プロジェクトの推進に寄与する。

■主な記事

AIS全体の活動における主なトピックスを示す。

1. 各室における活動の概要

- ・連携推進室

翻訳バンクの運用においては主に府省庁からの翻訳データの集積に取り組んだほか、翻訳データのアダプテーション用サーバの運用を開始した。また、第2回自動翻訳シンポジウムを開催した。

- ・連携研究室

AIデータテストベッドを構築した。また、不均衡データを対象とした機械学習手法の開発及びAI×セキュリティの研究開発等を行った。

2. 「人間中心のAI社会原則」検討会議への参画等

平成30年5月から人工知能技術戦略会議（議長：安西祐一郎 日本学術振興会顧問）の下に開催され、同年9月からは更なる発展・強化を目的として統合イノベーション戦略推進会議（議長：菅義偉 官房長官）の下に置かれた「人間中心のAI社会原則」検討会議にAISセンター長名で構成員として全9回の検討会議に参加し、AIをより良い形で社会実装し共有するための我が国の理念について、2019年に開催予定のG20等を通じて

国内外に発信する際の基本原則となる「人間中心のAI社会原則」を策定した。

また、総務省が設置したAIネットワーク社会推進会議にNICTからオブザーバとして参加するとともに、同推進会議の下に設置されたAIガバナンス検討会及びAI経済検討会においてもオブザーバとして参加し、国内外の社会・経済の領域におけるAIに関する情報収集に努めた。

3. 人工知能EXPOへの出展（図2）

NICTのAI研究における社会実装を提案するため、ASTREC、DIRECT、CiNetと連携して人工知能EXPOに以下の研究開発成果をポスター展示及びデモ展示をした。出展ブースには開催期間中（2018年4月4～6日）に延べ1,000名以上の来場者の訪問を受けた。

- ・AIデータテストベッドの構築及び翻訳バンクについてポスター展示
- ・多言語音声翻訳アプリ及び自動翻訳サイトの実機によるデモ展示
- ・対話システムWEKDAの利用シーンについて動画展示
- ・脳から始まる未来の情報通信についてポスター展示



図2 人工知能EXPO 出展の様子